

森林環境教育 若久小学校

『校庭の樹木ウォッチング』

10月10日、福岡市南区の若久小学校の5年生、111名を対象に森林環境教育を実施しました。12名のインストラクターが出向き、生徒たちと自然観察を行いました。

五感を使って、樹木や自然に触れあうことを体験することで、樹木、自然への興味を高めてもらいたい、また、自分たちと自然との関りに気づき、自然を守ることの大切さを学んでもらいたいという主旨のもと、フィールドビンゴ、樹木ウォッチングのプログラムを用意しました。

まずはクイズ。「地球上で一番大きな生き物は？」の問題に、一人の生徒が「人間」と答えました。それは「人間の心が一番大きいから」。その言葉には、インストラクター一同、心を打たれました。

クイズの正解は、もちろん「木」です。そこで、グループに分かれて、いよいよ樹木観察です。フィールドビンゴカードを手に、最初に生徒たちだけで、ざっと樹木を見て回りました。

それからインストラクターと一緒に、約12種の樹木を観察しました。熱心にメモを取ったり、面白い形の葉を競って触りあったり、楠の木のいい匂いにうっとりしたり、楓の種子をプロペラのように飛ばしたり、等々しっかりと五感を使って、樹木を感じていたようです。

私の班では、藤のサヤを向いたら、芋虫が出てきて大騒ぎになりましたが、「どうやって、こんな堅いサヤに虫が入ったの？」「サヤの中に卵を産んだんだよ」「えーっ、すごい！！」「この虫の名前が知りたい！」と、生徒たちは夢中になりました。

ふりかえりの時には、どの子も満足気な顔をして、今日学んだこと、感じたことを一生懸命に発表してくれました。自然の面白さに心が開かれたようでした。

最後に全体でまとめのお話の時には、「木は、森は〇〇をきれいにしてくれる」の〇〇に、たくさんの手が上がりました。「空気」「水」「大地」…と答えてくれましたが、その中に「心」と言ってくれた生徒がいた時には、私たちインストラクターのほうから声があがりました。それこそが、今日、子供たちに感じてもらいたいことだったからです。

生徒たちの心に、自然への興味、親しみ、大切にしたいという気持ちをしっかりと届けることが出来たのではないかと思います。

参加：大森、野見山、鶴田、轟、戸町、久保田、陣内、溝口、千種、石橋、諸石、出口
記：出口



